子どもたちの未来に夢を！

コロナ禍で困窮の人を支援

「うえだこども食堂」開催

大鍋に用意した豚汁やカレーなど手渡し

コロナ禍の影響で生活が困窮する家庭や外国籍住民、子どもたちに食料を提供して支援しようと先ごろ、上田市社会福祉協議会駐車場を会場に「うえだこども食堂」が開かれ、カレーライスや豚汁、ピザや飲み物が参加者に配られました。

上田市社協と社会福祉法人「まるこ福祉会」、市民ボランティアが連携して初めて開いたもの。丸子地域で18年から28回開催してきた同福祉会の桝澤正敏理事長はオープニングで、「子どもたちの未来に夢をと取り組んできたが、市の中央での共同開催はうれしい。これからも続けて開いていきたい」とあいさつ。市社協の宮之上孝司会長は「目の前の問題に対応することが大切な支援になるはず」とし、土屋陽一市長は「コロナ禍でもできることをやっていくことが大事で、こども食堂は素晴らしい取り組み。市も連携していきたい」と述べました。

スタッフは温かいものを届けたいと早朝から調理などを行い、開場直前に大鍋の豚汁などを容器に移し200人分を準備。米はまるこ福祉会の利用者が生産したものを使い、フルーツピザには台風19号被害で落下したリンゴを調理・冷凍保存したものが使われました。

感染防止のためドライブスルー方式が採用されましたが、徒歩での参加者にも明るく声をかけて誘い、「ありがとう」の声と笑顔が交わされていました。

長和町の「おたや祭り」で

コロナ禍の収束願い　中学生が浦安の舞

依田窪地域に正月を告げる長和町古町の豊受大神宮例大祭「おたや祭り」が1月14日・15日に開かれ、地元女子中学生による「浦安の舞」の奉納がありました。

江戸時代から続くこの祭りは、物語をテーマに各地区が手作りする山車5基が奉納され、一連の風習が県の無形民俗文化財選択に指定されています。

例年沿道にはだるま売りの声が飛び交い、上田や佐久などから訪れた延べ4万人の人出で賑わいますが、今年は新型コロナ対策で山車の奉納・屋台の出店は中止となり、おふだ（大万度）の授与と「浦安の舞」、新年厄除け祈祷が行われました。

「浦安の舞」は豊受大神宮禰宜の立岩千尋さんの指導のもと、感染対策に注意しながら、依田窪南部中学校の2年生女子8名が昨年の夏休みから練習を重ねてきました。

この日は、社務所で須藤妙子さん、笹沢杏有深さん、山口純怜さんが「浦安の舞」を奉納。天冠を着け白のチハヤに緋の袴で登場し、手には扇や鈴を持ち、笛などの囃子に合わせてゆったりと優雅に舞いました。

3人は「コロナ禍が早く終息するように願って舞いました」。神社総代長の星野典博さんは「山車を奉納したいとの声もありましたが、やむなく中止に。そんななか、地元中学生が心をこめて舞ってくれ、うれしい」と話していました。

外国籍住民の感染予防に

空間除菌剤を寄贈

●上田薬剤師会が市多文化共生推進協会へ

上田市に住む外国籍住民の感染予防に役立ててもらおうと、上田薬剤師会（飯島康典会長）が上田市多文化共生推進協会（AMU・村松正孝会長）へ空間除菌剤50個を寄贈しました。

空間除菌剤は部屋に置き、蓋を開けると二酸化塩素ガスが発生するタイプで、約3ヵ月間有効とのこと。同薬剤師会では市の委託を受け新型コロナウイルス感染予防研修会を昨年秋から開いており、今回の寄贈はこうした地域貢献事業の一環。

上田市社会福祉協議会で先ごろ行われた贈呈式で、飯島会長は「少しでも感染防止に役立てばうれしい」とあいさつ。村松会長は「外国籍の方は雇い止めなどで暮らしが厳しくなっており、情報も届きにくくなっている。安全な生活が送れるよう除菌剤を活用したい」と感謝しました。

市内に住む外国籍住民は昨年12月1日現在で約3800人。住居をシェアするなどのケースも多く、感染予防への注意喚起が必要ですが、言語や生活習慣の違いもあり情報も届きにくい状況とのこと。上田薬剤師会では、今回寄贈した空間除菌剤の配布が「対策強化につながれば」と話していました。

「地産地消の店」新たに2店認定

セキ精肉店ハム工房セキ　ビストロ椎菜

上田市や地元生産者らでつくる上田地産地消推進会議（伊藤良夫会長）では先ごろ、地元農産物を積極的に利用する「地産地消の店」に市内常磐城の「セキ精肉店ハム工房セキ」と海野町の「ビストロ椎菜」を認定。市農林部で行われた認定式で、両者に認定証などが交付されました。

旅館・ホテル、飲食店、小売店などを対象とする同認定制度は、地元農産物の生産・消費拡大、観光振興につなげようと09年に始まり、今回を含め79店を認定。

認定式で工藤秀樹農林部長は「上田産の味がよく品質の高い農作物を『信州上田なないろ農作物』としてブランド化を進めている。その魅力を市民や観光客に広く発信するため〝おいしい尽力〟をお願いしたい」とあいさつし、認定証と看板、幟などを受け取ったハム工房セキの関和彦さん（47歳）は、「信州太郎ぽーくの肉で生ハムなどを作っている。甘味があってフルーティな肉で、生ハムも好評。今後はソーセージなどにも利用していきたい」。

またビストロ椎菜の大塚正久さん（60歳）は、「県が開発した米『風さやか』の上田産を使っており、おいしいと好評。市民を健康にすることが使命と考えており、今後もますます力を入れて取り組みたい」とし、「コロナ禍で飲食店はどこも厳しい。『もってイテク上田』などテイクアウト利用の発信も再度お願いできれば」と話していました。

じゅん子ママのママレシピ　かんたん家庭料理

魚のムニエル白ワインソース

料理／横山じゅん子さん

バレンタインデーのディナーにいかが？

■材料　2人分

白身魚（スズキ、タイ、カジキなど）2切れ・植物油20cc・バター10g・小麦粉、塩、こしょう各少々・A（バター10g・白ワイン50cc）

■作り方

①魚に塩こしょうして、小麦粉をつける（小麦粉をつけたらすぐに焼く）。

②フライパンに植物油を引き、温まったらバターを入れる。バターが溶けきる前に①を身を下にして置く。

③裏返して皮がパリッと焼き上がったら皿に盛る。

④同じフライパンにAを入れ、ひと煮立ちしたら魚にかける。

※つけ合わせは、いんげんのバターソテー、トマトのムニエル、バナナのムニエル（ほの甘くてお勧め）。

「蚕都上田」の輝きと未来

136　信濃史学会会員　阿部　勇

鐘ケ淵紡績②　鐘紡誘致と丸子

工藤善助は昭和8年初頭には「鐘紡が工場拡大を検討中」の情報を得ていました。なぜでしょう。

善助の甥の箕輪益夫が兵庫県芦屋に居住。益夫は鐘紡社長津田信吾とは昵懇の仲で、信吾から得た情報を善助に細大漏らさず伝えていたからです。

鐘紡本社は「工場拡大検討中」の情報が全国に洩れる前に長野、上田、丸子、岡谷、上下伊那、甲府を候補地として検討。丸子へは箕輪益夫の案内で津田社長と役員が視察に訪れ、町助役の小井土貞造（禎蔵）が建設適地を案内。貞造は軍隊で工兵隊に所属し河川工学を学んだといわれ、工場建設予定地の西脇を流れる依田川の護岸整備に尽力。視察団はこの事実も重視したといわれています。

津田信吾　鐘紡社長

鐘紡本社役員が中丸子は工場を建設する適地であると判断したことを受け、町長の金子金平は、工藤善助から の助言を参考に、町を挙げての誘致運動を展開。津田社長は丸子を訪問して計画を確認しました。

善助は鐘紡と丸子をつなぐ強力なパイプだったのです。なお、元衆議院議員の工藤善助と上田誘致に尽力していた地元選出の衆議院議員・鷲沢与四二らは連絡をとり合っています。

陽葉

映画「大コメ騒動」を見ました。1918年（大正7）、富山県の漁業労働者の女房たちが、買い占めたコメの値上がりを狙う豪商や警察と闘う「女一揆」を描いた痛快〝活劇〟映画です。富山出身の本木克英監督のもと、井上真央、室井滋ら女優陣が躍動しています◆この事件をきっかけにコメよこせの声は全国に広がり、時の内閣が倒れた空前の大騒動に発展しました。しかしその実態を正面から取り上げた映画を私は見たことがなく、新鮮な思いがしました。文学作品でも、住井すゑ著『橋のない川③』にある大阪の騒動ぐらいしか読んでいません◆当時の時代背景をみると、「スペイン風邪」が世界中で大流行、第一次大戦やロシア革命など激動の時代でした。ちなみに上田市でも騒動が発生、米価を引き下げて収まったと『上田市誌』近現代編⑦にあります。新型ウイルスに悩まされ世界が混迷状態の現在、この騒動の研究が深められ教訓を引き出せたら何らかのヒントが得られるかも。（F）

ううえだ　ひと・もの興しの紡ぎ手

上田商議所工業部会が「コロナ禍対応の11社を表彰

上田商工会議所工業部会の「うえだ　ひと・もの興しの紡ぎ手表彰」の令和2年度の表彰式が先ごろ同商議所で行われ、コロナ禍に対応した11社の取り組みが受賞しました。

ものづくり技術や独自の企業経営に光を当てる独自表彰制度ですが、今回はコロナ禍対策の1部門のみに限定し、オンライン対応体制構築や空間除菌器機開発、テレワークのヘッドフォン機材の提供、消毒液の製造や施設・団体への贈呈、感染防止アイテム創出、社員の感染予防意識向上などの取り組みを評価して表彰。

表彰式は密を避けるため、特別賞を受賞した3社の担当者が出席して開かれ、柳澤憲一郎会頭が表彰状と記念品・賞金を授与しました。

災害時用段ボールベッドと間仕切り、飛沫対策用パーテーションなどを開発して評価された、コムパックシステム㈱（市内秋和）の里美悠生係長は受賞者を代表してあいさつ。「災害時に避難所用に資材を供給する協定を上田市、青木村、東御市と結んだが、感染予防を考慮した間仕切りとし、オフィスのデスクパーテーション開発も手掛けました。今後も、地域の役に立てる製品作りに取り組んでいきたい」と述べました。

●カンタン体チェック&楽しく運動　参加者募集

第2・4㊏　9・30～11・30　小諸市市民交流センター2階（相生町）　料金1000円　内容／病院のスタッフによるからだ測定（血圧・背筋・前屈・握力・酸素飽和度・体組成計・腹囲・ロコモ度など）と運動指導　申込み／下記へ電話する　定員／各回5名

▼浅間南麓こもろ医療センター保健予防課　☎0267㉒1070（10・00～16・00）

＊訂正　1月16日号1面「着物歳時記」のタイトルの文字に誤りがありました。正しくは「初閻魔」です。お詫びして訂正します。